

風水害

被害を防ぎ、被害を最小限におさえるため、
気象状況を把握して「早め」の対応を心がけましょう。



こんなときは風水害発生の
危険性が高まっています

- ・洪水の危険性のある地域で大雨が降ったとき
- ・避難指示が出されたとき
- ・強風や大雨などにより、自宅にいることが危険だと判断されるとき

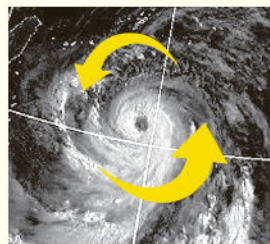
台風を知ろう

台風発生

海面水温が26℃程度以上のあたたかい海域からの熱と水蒸気により発生。

台風接近

台風が近づくにつれて気圧が下がり、雨や風が強さを増す。



台風の特性

台風は、進行方向右側の風が強くなります。

資料：気象庁

風の強さと被害

平均風速(m/秒)	予報用語	人への影響	屋外・樹木の様子	車に乗っていて
10以上～15未満	やや強い風	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	樹木全体が揺れる。電線が鳴る。	道路の吹き流しの角度が、水平(10m/秒)。高速道路で乗用車が横風に流される感覚を受ける。
15以上～20未満	強い風	風に向かって歩けない。転倒する人も出る。	小枝が折れる。	高速道路では、横風に流される感覚が大きくなり、通常で運転するのが困難となる。
20以上～25未満	非常に強い風	しっかりと身体を確保しないと転倒する。		車の運転を続けるのは危険な状態となる。
25以上～30未満		立ってられない。屋外での行動は危険。	樹木が根こそぎ倒れ始める。	
30以上	猛烈な風			



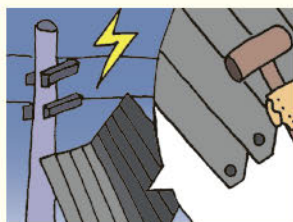
Try!

台風対策

台風による風や雨で被害を受けないよう、日頃から地域ぐるみで対策を行いましょう。

飛ばされそうなものは固定する

テレビアンテナやゴミ箱、鉢植え等には特に注意しましょう。



側溝や排水溝の掃除をする

流れ込んだ雨水があふれ出ないように、定期的に清掃しましょう。



大雨を知ろう

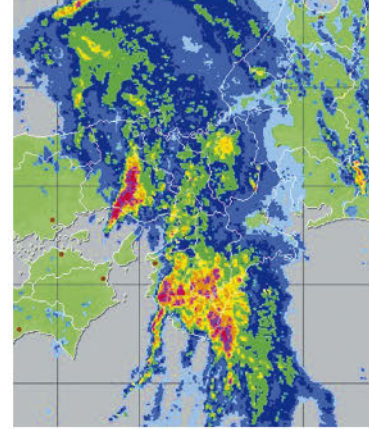
集中豪雨の脅威

集中豪雨が起こるメカニズム

地面付近のあたたかい空気と上空の冷たい空気が混じり合うと大気は不安定になり、発達した積乱雲を発生させ、集中豪雨をもたらします。

どのようなときに発生するの？

- 南からあたたかく湿った空気が流れ込む。
- 冷たい空気が南下し日本の上空に入る。
- 地面付近のあたたかい空気が上昇し対流を生む。



レーダーアメダス(降水量) 参照:気象庁

雨の強さと被害

1時間の雨量	予報用語	人の受けるイメージ	災害発生状況
10~20mm	やや強い雨	ザーザーと降る。	長く続く時は注意が必要。
20~30mm	強い雨	どしゃ降り。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れがはじまる。
30~50mm	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。
50~80mm	非常に激しい雨	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	都市部では地下室に雨水が流れ込む場合がある。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生。
80mm以上	猛烈な雨	息が苦しくなるような、圧迫感がある。恐怖を感じる。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く厳重な警戒が必要。

Try!

ハザードマップを見てみよう

大雨による災害発生に備え、日頃からできる防災を考えましょう。

ハザードマップの確認

ハザードマップを参考に、地域の危険箇所をあらかじめ把握しておきましょう。また、事前にどこへどのルートで避難したらよいか確認しておきましょう。

気象情報等に注意する

大雨や洪水は、ある程度予測ができる災害です。雨が降っているときは、テレビ・ラジオ、市ホームページ等を活用し、気象情報、雨量、水位情報に注意しましょう。

ハザードマップは下記 QR からアクセスしていただけます



枚方市
防災マップ



寝屋川市
防災ガイド
&ハザード
マップ

